

## 栗野西地区の通過交通の現況調査結果について

地域課題の一つとして地域ビジョンに掲げる通過交通の危険性を市と共有するため、交通量がとりわけ顕著で、児童・生徒が横断する栗野台南面道路(以下、「東西生活道路」と言う)を中心に、現地踏査を行いました。その結果は以下のとおりです。

今後、「当面の安全対策」を市と協議・実施するとともに、「抜本的対策」について、継続協議が必要と考えられます。

- 1 調査日時 令和5年4月13日(木) 午前7時～8時30分
- 2 調査人員 (市) 道路建設課 2人 地域担当職員 1人 計3人  
(地域) まちづくり協議会会長、同安全部会長、自治会長など9人 途中から見守りボランティア2人が同行 計11人
- 3 調査区域 東西生活道路(栗野台南口四叉路 ⇒ 十六グラウンド) ⇒ 岩野田中学校



▲東西生活道路(7時32分)



▲同「済法寺近くで児童が横断」(7時36分)



▲同・左の横断用旗の設置(7時36分)



▲同「県道接続口」(7時40分)



▲同「県道接続口」(7時42分)



▲「生徒の南北通学路(栗野西公民館西側)」(7時36分)

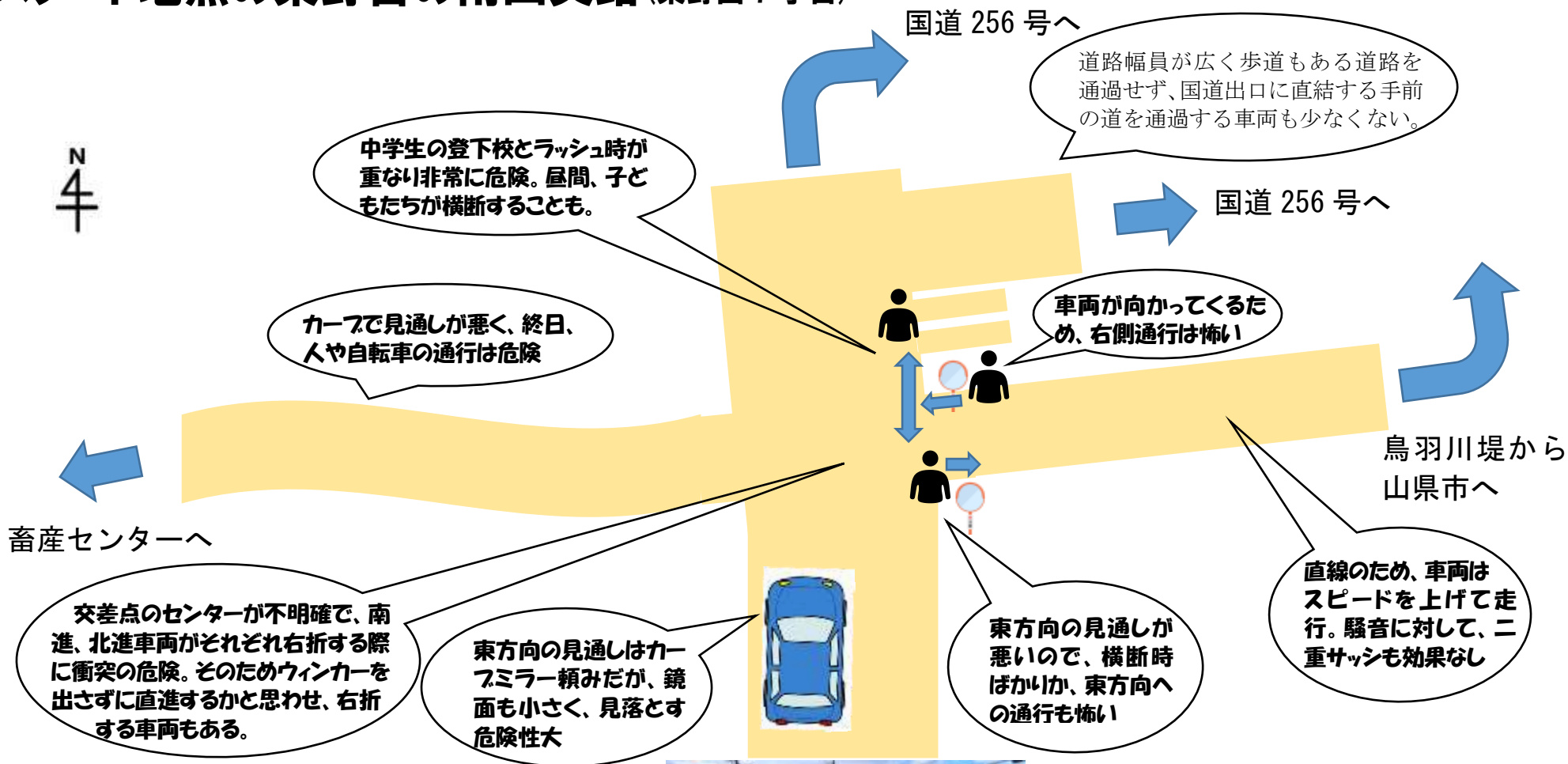


▲県道 東方面から中学校へ向かう生徒(7時56分)



▲「中学校正門」(7時58分)

# スタート地点の栗野台の南四叉路 (栗野西 7 丁目)



▲「栗野台南四叉路」調査風景 (7時23分)



▲「栗野台南四叉路」を生徒が横断 (R5.10.24 7時48分)

## 4 通過交通の背景・課題

### (1) 現況

岩野田北地区は、土地区画整理事業が施行されていないため、狭い道路が多いにもかかわらず、近年、宅地化に更に拍車がかかり、戸建て、集合住宅の建設ラッシュが進んでいます。このような状況下で、国道 256 号が開通して以降も、地区へ流入する通過交通量は依然として多く、児童・生徒をはじめ、住民は交通事故の危険に著しくさらされています。とりわけ、山口市～畜産センター～北署を結ぶ道路は、信号も少ないこともあり交通量が多く、栗野台の団地の南面を通る**東西生活道路**は、狭隘かつ生活道路にもかかわらず、あたかも幹線道路化しています。当該道路は、昭和 50 年代にはすでにラッシュ時の車両の多さが目立っていましたが、高富町とを結ぶ鳥羽川の橋が車両のすれ違いができなかったため、ラッシュ時は一方通行状態でした。しかし、水害を受けて河川改修後、堤防道路が対面通行できるようになってからは、双方向でラッシュの状態になっています。

更に、東西生活道路(特に県道への接続部分)のラッシュを避けて、**地区全体の生活道路**にも通過交通が入り込んでいます。

交通安全は、「**住民の命を守るまちづくりの重大かつ基本的なテーマ**」であり、岩野田北の地域ビジョンでも重要課題になっています。

加えて、通過交通は騒音・振動、ポイ捨て問題も含めて、居住環境を悪化させています。住民アンケートでも、交通安全、通過交通に関する問題提起が多く寄せられています。

### (2) 今後の検討事項等

**東西生活道路**の「**当面の安全対策**」としては、中学生の通学時の横断が余儀なくされる栗野台南の四叉路などの安全対策(小学生も八幡洞地区の児童が済法寺近くで横断)のほか、通過車両に対する対応(交通規制強化、カメラや看板設置等)などを検討するとともに、「**抜本的な中長期的対策**」として、畜産センターと山県 IC をつなぐ新たな道路整備(あわせて畜産センターに関しては公園の魅力向上・再整備)が期待されます。

また**地区全般**に関しては、住民の安全のためにも県道安食栗野線の道路改良(歩道整備)や、宅地開発が進む現状を踏まえ、通学路をはじめとする生活道路全般の安全点検と対応(交通安全施設、道路改良等)も継続的なまちづくりのテーマになると思われます。

以上、今回の調査を踏まえ、地域でも情報共有を図りつつ、市との協議を重ねていくこととなります。

なお、自治会連合会を通じ、市への地域改善要望にも盛り込みます。